

## 第4回 会議資料

# 合併構想説明会の開催結果

伊予市・中山町・双海町・合併協議会

## 伊予市・中山町・双海町合併構想説明会開催結果

### 1 開催会場及び参加者数等

12会場（伊予市：6会場、中山町：3会場、双海町：3会場）で開催し、参加者総数は、611人、発言者は90人であった。

市町名	開催回数	会場	対象地域	参加者数			発言者数		
				男	女	計	男	女	計
伊予市	第1回	JAえひめ中央南伊予支所	上野地区	91	11	102	10	0	10
	第2回	中村地区公民館	中村地区	50	4	54	10	0	10
	第3回	鳥ノ木東集会所	本庁地区	31	27	58	5	1	6
	第4回	上吾川集会所		29	4	33	11	0	11
	第5回	市民会館		43	10	53	6	2	8
	第6回	緑風館	大平地区	34	3	37	11	0	11
小 計				278	59	337	53	3	56
中山町	第7回	佐礼谷生活改善センター	佐礼谷地区	21	6	27	8	0	8
	第10回	農業総合センター	中山・永木地区	25	5	30	3	1	4
	第11回	農業総合センター	出淵・野中地区	67	13	80	10	0	10
小 計				113	24	137	21	1	22
双海町	第8回	翠小学校体育館	翠校区	43	4	47	3	1	4
	第9回	下灘コミュニティセンター	下灘校区	36	3	39	6	0	6
	第12回	町民会館	由並校区	42	9	51	2	0	2
小 計				121	16	137	11	1	12
合 計				512	99	611	85	5	90

### 2 説明会の概要

- (1) 新市まちづくり構想の説明
- (2) 新市の事務の方式と住民自治組織の説明
- (3) 質疑応答

### 3 結果の総括

分散型のまちづくり・主要施策・事務の方式（伊予方式）・住民自治の推進について、説明し理解が得られたと考えております。

会場で得た意見・要望等については、今後の新市建設計画立案及び事業推進の参考として、できる限り反映させていきます。

### 4 協議事項

「郷」を「くに」と呼ぶことについて

#### (1) 説明会における意見等

「郷」を「くに」と呼ぶことは無理ではないか。

「まちづくり構想」の中での「郷(くに)づくり」では、整合がとれないのではないか。

#### (2) 協議の論点

説明会における意見等は、字義的な表記上の妥当性を問うものである。

国語表記上は、「郷」に「くに」との読みはない。

この構想では、伊予方式による行政運営、住民自治組織の制度化による協働のまちづくり、自治基本条例の制定など、先進事例にとらわれない独自のまちづくりによる将来像に対して、独創的な呼び方にも意味を見出そうと、あえて通常の読みと異なる呼び方をするものである。

「まちづくり」という言葉は既に一般に定着しているが、その概念は非常に広く、地域づくりや住民自治そのものとも考えられるほか、これらに関する個々の事業もまたまちづくりと呼ばれる。これを使用に際して逐一定義することは、かえって論議の方向性を見失わせることとなるため、そのまま幅広い概念で使用しており、この構想で限定的に概念を定義した郷(くに)と一般的に広い概念を持つまちづくりとは、その使用において整合させる必要のないものである。

独創的な呼び方をすることに一定の効果を期待するものであるが、全国的に「郷」を「くに」と呼ぶ事例がないわけではない。この件については、伊予市・中山町・双海町のまちづくり実績と目指すべき方向とから、主体的に判断すべき事項である。

#### ア 他に使用事例がないことの期待効果

先進事例にとらわれない積極性を持ち、歴史的な新局面にあることを理解してもらい、意識改革をする。

#### イ 他にも使用事例があることの効果

実績があることに対して安心感と信頼感が持てる。また、表現、発想としても広く受け入れられやすい。

#### (3) 参考（使用事例）

- ・熊本県総合計画（「11の郷(くに)づくり」を進めます。）
- ・会津若松市観光物産情報（「いやしの郷(くに)会津発見伝」）
- ・矢部・清和・蘇陽合併協議会（「いのちの理想郷」という郷(くに)づくり）
- ・福井県小浜市中名田地区ホームページ（田村の郷(くに)eたより）
- ・JANJAN（NPO型インターネット新聞）（全国お郷(くに)ことば・憲法第9条）

## 5 主な意見等

### 都市基盤の整備

水の確保には全力を尽くしてほしい。

R56号の4車線化、R378号バイパス及び伊予・松山港連絡道路整備を早期に完成させてほしい。

高齢者が歩くという発想で道路を見、整備するという観点で進めてほしい。

合併による観光の面も考慮し、砥部町へ抜けるトンネルの実現についてもお願いしたい。

高速情報通信網の整備が遅れている所は行政でカバーして、田舎にも若者が住めるようにお願いしたい。

### 住環境の整備と生活安全の確保

集落排水事業の整備を進めてほしい。

### 福祉の向上と保健・医療の充実

少子高齢化の医療対策として、高度な医療技術の導入の検討、関係医療機関との連携を図りながら、高度専門医療施設の誘致についても検討してほしい。

合併により、高齢者や障害者などにしわ寄せがこないようにしてほしい。

過疎、少子化、高齢化になっても、良い生活ができるようにしてほしい。

### 教育・文化・スポレクの振興

財政負担の大きい箱物整備は慎重に考えてほしい。

文化活動等で利用しやすい会館等の施設整備をしてほしい。

### 産業の振興

4つの基本政策が掲載されているが、この中で一番の基本は「産業の振興」でないといけないと思う。産業を興して、みんなが働く場を持ち、お互いに生活のレベルがアップできるような施策を講じてほしい。

ため池の修復で多大な負担が関係者にかかっているが、農業は不振で困っており、行政として何か対策を考えてほしい。

現在実施している農業振興等の町単事業についても、引続き実施してほしい。

森林組合も合併するが、市・町の補助がないとできないところがあるから、新市においても後押しをしてほしい。

農林業の振興について掲載しているが、農業を担っているのは女性が多い現状を見て、女性が明るい方向の農業を目指していけるようにしてほしい。

構想が絵に描いた餅にならないようにしてほしい。

伊予ICを有効に利活用してほしい。

工業団地の企業誘致を進めてほしい。

## 参画と協働の郷(くに)づくり

新市の事務方式と住民自治組織を、これからどう実施するのかというのが課題だと思う。権力者が権限を委譲する「分権」ではなく、住民サイドの基本は「自主」「自立」と思う。住民の英知やエネルギーを結集した形を、より強く出した方向の構想にしてもらい、がんばって、いいまちづくりを進めてほしい。

住民自治組織について、小学校単位でなくもっと小さな単位で行い、各地域で10か年の地域づくり計画を作る。そうでないと意識改革も進まない。

自治組織の機能・支援等についても、行政主導・画一的なものではなく、住民が主体的に意欲を持って参加をする。住民自治の組織は、協働を育てていくという仕組みづくりをお願いする。

住民自治組織で意見が出なければ、意見が出ないからこうしますではなく、みんなが自由に意見が言えるような環境を作ってほしい。

住民サイドも意識改革が必要だと思う。行政も十分に住民の立場に立って考えていくようにお願いする。

住民自治組織ですが、道づくり等を地域の住民に委託すると人件費、工事費も半額程度でできる。これから農村地域も大変きびしいので、負担金を出すのではなく自分達が働いて行く。住民ができる所で、そのような制度があれば助かると思う。

各地域に良いところもあり、自分たちの力だけでは対応できないときに、行政の助けがあれば、住民と一体となり、投資した以上の効果が出ると思うのでお願いしたい。

それぞれの支所に「御意見箱」みたいなものを設置して住民の意見を吸い上げてほしい。

合併しても区長制度を残してほしい。

合併すると周辺地域の過疎化が急速に進むと思う。過疎化に歯止めがかかるような具体的な方策を考えてほしい。

行政の効率化とサービスを低下させない、この相反することを考えた上での合併でなければならぬと思う。

## 財政シミュレーション

この厳しい財政状況の中で、どういう形でまちづくりをしてゆくの、どのような展望があるのか、どういう形でのメリットが出てくるのか、説明してほしい。

財政シミュレーションで合併してもしなくても赤字になるが、その解消方法について、もっと詳しく説明すべきではないか。

また、年々歳入が減ってくるわけだから、それに対し市は、どのような財政基盤を確立しようとしているのか、分かりにくいので教えてほしい。

施設(第3セクター等)について、合併後に財政的な負担として残らないよう対応を協議しておいてほしい。

特例債は、自分たちの借金になるから、生きたお金を使っていただくことを要望します。

人件費の削減効果をもっと出るように議員定数を考えてほしい。

大変厳しい財政。財政の計画についても情報公開を行い、住民の知恵を借りるといったことも配慮してほしい。